

作成:2014年3月26日



GPS 安全性要約書

メタクリルアミド

この GPS 安全性要約書は、化学産業界の自主的化学品管理の取組み (GPS : Global Product Strategy) に基づいて、弊社が製造する化学製品の安全な取り扱いに関する概要を提供することを目的としています。ヒト健康や環境への影響あるいはリスク評価の詳細、法規制情報や分類・ラベル情報等の専門的な情報を提供するものではありません。また、弊社が発行する安全データシート (SDS) に代わるものではありません。本製品の取り扱いに際しては、弊社が発行する SDS をご確認ください。

記載内容は、現時点で入手できる法令、資料、情報およびデータに基づいて作成しておりますが、品質など、いかなる保証をするものではありません。

1. 物質の特定 (Chemical statement)

| 物質の特定 | 説明 |
|-------------|--|
| 三井化学の製品名 | メタクリルアミド |
| 化学名又は一般名 | メタクリルアミド |
| 成分 | メタクリルアミド |
| 化学特性 (化学式等) | $\text{CH}_2=\text{C}(\text{CH}_3)\text{CONH}_2$ |
| CAS 番号 | 79-39-0 |
| 濃度 | 99.0 % 以上 |
| 官報公示整理番号 | 化審法 : (2)-1065 安衛法 : 既存 |

2. 物質の概要 (General statement)

メタクリルアミドは白色の結晶状の固体です。臭いはありません。25 °Cの水に 100 g/l よりも多く溶けるほか、アルコール類やエステル、炭化水素にも溶解します。

メタクリルアミドは飲み込むと有害です。眼に対し強い刺激があります。一度飲み込んだだけでも神経系や精巣に障害を与える恐れがあります。長期に飲み続けると、神経系に障害を起こします。また、長期に飲み続けると、血液に障害を起こす恐れがあります。

メタクリルアミドが水棲生物に対して有害性を及ぼす可能性は低いです。環境に残留する可能性、生体内に蓄積する可能性は共に低いです。

作業者は、全体換気装置を設置した場所で、かつ密閉された装置又は局所排気装置を使用しなければ、メタクリルアミドを扱ってはいけません。粉体が飛散しないように管理して下さい。ACGIH (米国産業衛生専門家会議) や日本産業衛生学会は、メタクリルアミドの作業環境濃度の許容濃度を設定していませんが、作業環境濃度が高いと予想される場合は、防塵マスクまたは電動ファン付き呼吸保護具の装着を考慮して下さい。

メタクリルアミドは、消費者用途がないため、一般消費者へのばく露の可能性は極めて低いと予想されます。

環境への影響を最小化するために、メタクリルアミドまたはこれを含む製品および製品の残留物を河川や水路、下水溝などに流さないで下さい。

3. 製品情報 (Product information)

この製品に関する詳しい情報については以下にお尋ね下さい。

三井化学株式会社

<https://www.mitsuichem.com/contact/safety/>

4. 物理化学的特性 (Physical / Chemical properties)

メタクリルアミドは白色の結晶状の固体です。臭いはありません。25 °Cの水に 100 g/l よりも多く溶けるほか、アルコール類やエステル、炭化水素にも溶解します。

| 特性 | 説明 |
|--------------|---|
| 物理的状态 | 固体 |
| 形状 | 結晶 |
| 色 | 白色 |
| 臭い | 無臭 |
| pH | 知見がありません |
| 融点 | 111.3 °C |
| 沸点 | 225 °C (1013 hPa) |
| 引火点 | 128.4 °C |
| 自然発火温度 (発火点) | データなし、常温の空気と接触しても自然発火しません、自然発火性固体 [区分外] |
| 燃焼性 (固体) | 可燃性 (燃焼熱量: 27 kJ/g (計算値)) |
| 粉塵爆発下限界 | 50 mg/l |

| | |
|--------------|--|
| 限界酸素濃度 | 12 % (試料濃度 825 mg/l) |
| 最小発火エネルギー | 75 mJ (試料濃度 825 mg/l) |
| 蒸気圧 | 1.3×10^{-4} hPa (25 °C) |
| 蒸気密度 | 知見がありません |
| 蒸発速度 | 知見がありません |
| 密度 | 1.138 g/cm ³ (25 °C) |
| 溶解性 | > 100 g / l (水; 25 °C)、アルコール類、エステル、炭化水素に可溶 |
| オクタノール/水分配係数 | Log Pow = -0.15 (25 °C) |
| 分解温度 | 知見がありません |

5. ヒト健康影響 (Health effect)

メタクリルアミドは飲み込むと有害です。眼に対し強い刺激があります。一度飲み込んだだけでも神経系や精巣に障害を与える恐れがあります。長期に飲み続けると、神経系に障害を起こします。また、長期に飲み続けると、血液に障害を起こす恐れがあります。

| 影響 | 説明 |
|---------------------------|---|
| 急性毒性 (経口) (経皮) (吸入) | 飲み込むと有害です [区分 4] 分類できません 知見がありません [分類できない] |
| 皮膚腐食性・刺激性 | 皮膚への刺激が生じる可能性は低いと予想されます [区分 3] |
| 眼に対する重篤な 損傷性/刺激性 | 眼に対し強い刺激があります [区分 2A] |
| 感作性 (呼吸器) (皮膚) | 知見がありません [分類できない] 知見がありません [分類できない] |
| 生殖細胞変異原性 | 遺伝性疾患が生じる可能性は低いと予想されます [区分外] |
| 発がん性 | 知見がありません[分類できない] |
| 生殖毒性 | 分類できません |
| 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) | 一度飲み込んだだけでも、神経系や精巣に障害を与える恐れがあります [区分 2] (神経系, 精巣) |
| 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) | 長期に飲み続けると、神経系に障害を起こします。 [区分 1] (神経系) 長期に飲み続けると、血液に障害を起こす恐れがあります。 [区分 2] (血液) |
| 吸引性呼吸器有害性 | 知見がありません [分類できない] |

6. 環境影響 (Environmental effect)

メタクリルアミドが水棲生物に対して有害性を及ぼす可能性は低いです。環境に残留する可能性、生体内に蓄積する可能性は共に低いです。

| 生態毒性 | 説明 |
|---------|--|
| 水生環境有害性 | 水棲生物に対して有害性を及ぼす可能性は低いです [急性、慢性ともに区分外] |

| 環境中の運命・挙動 | 説明 |
|-----------|--|
| 分解性 | 易生分解性 (DOC* 97 % ; 28 日) *: Dissolved Organic Carbon の略 |
| 生体蓄積性 | 非常に低い (Log Pow = - 0.15 から推定, BCF = 0.45) |
| 土壌中の移動性 | 知見がありません |

7. 推奨するリスク管理措置(Risk management recommendations)

メタクリルアミドを使用する際は、SDS または取扱説明書に従い、以下のリスク管理措置をとることを推奨します。これらリスク管理措置をとることで、メタクリルアミドの作業者および環境に対するリスクは管理できると考えられます。

| 対象 | リスク管理措置 |
|-----|--|
| 作業者 | <ul style="list-style-type: none">・全体換気装置を設置した場所で、かつ密閉された装置又は局所排気装置を使用しなければ取り扱うことはできません・ACGIH (米国産業衛生専門家会議) や日本産業衛生学会は、メタクリルアミドの作業環境濃度の許容濃度を設定していませんが、作業環境濃度が高いと予想される場合は、防塵マスクまたは電動ファン付き呼吸保護具の装着を考慮して下さい。・付着すると有害性のある物質が吸収されます。皮膚へのばく露を最小限とするような作業服、防護服を検討下さい。・作業管理者は作業者に対し、適切な保護具の選択および使用方法、また作業場の管理方法を教育して下さい・取り扱い場所の近くに目及び身体の洗浄装置を設定して下さい |
| 消費者 | メタクリルアミドは、消費者用途がないため、一般消費者へのばく露の可能性は極めて低いと予想されます。 |
| 環境 | ・製造および加工の過程では、排気・排水設備を設置し、定期的な設備の保守点検を実施して下さい |

- ・メタクリルアミドまたはこれを含む製品および製品の残留物を河川や水路、下水溝などに流さないで下さい
- ・漏洩防止対策をして下さい

8. 発行・改定日 (Date of issue / Revision)

2014年4月1日発行

弊社ホームページにて、最新の GPS 安全性要約書であることをご確認下さい。

<http://www.mitsuichem.com/ps/index.htm>

(注1) GHS 分類: Globally Harmonized System of Classification and Labeling of Chemicals

世界的に調和されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類するシステム。

「物質および混合物の分類、表示および包装 (CLP) に関する欧州議会および理事会規則 (EC (No) 1272/2008 annex IV)」に従った分類を採用した。

<http://echa.europa.eu/web/guest/information-on-chemicals/registered-substances>

| 作成/改定日 | 項目 | 改定箇所 | 引用 SDS 発行日 | 版 |
|-----------|----|------|------------|---|
| 2014/3/26 | | | 2011/4/1 | 1 |

GPS 安全性要約書は、ヒト健康や環境への影響あるいはリスク評価の詳細、法規制情報や分類・ラベル情報等の専門的な情報を提供するものではありません。また、弊社が発行する安全データシート (SDS) に代わるものではありません。本製品のお取り扱いに際しては、弊社が発行する SDS をご確認下さい。

本要約書は日本国内での本製品の使用に対する評価を記載したものです。本製品のお取り扱いに際しては、弊社が発行する当該国向けの SDS をご確認下さい。